

【対談】

学部長と同窓会長 将来について語る

【清水】先日、「校友会50年史」を作るので、理工学部卒業生の名簿を整理したら、理工は5万3千人もの大同窓会なのです。しかし、5万人いても同窓会行事に参加してくれる人が非常に少なく、いろんな機会を利用して同窓会に目を向けてくれるようにしたいと思っています。『理工同窓会だより』や、今年5月に立ち上げるホームページも充実して行きたいと思っています。去年は、ご存知のように理工同窓会員は卒業生だけではなく、大学教職員関係者全員でサポートしてもらう形にしました。同窓会の大部分の活動は大学のサポート役と考えています。

【安藤】まあ確かにそうですね。

【清水】そう言う意味で大学と完全に歩調を合わせて行きたい。

そうそう、遅れましたが非常に厳しい社会状況の中で学部長になられてご苦労様です。

【安藤】よくわかっていただけて。

同窓会の向かう道

【清水】新3学科卒業生がもう少しおられると思つたら、ほとんど微々たるもので。

【安藤】新3学科は2000年に出来て、卒業生は2004年からですからね。

【清水】大学の最近の変貌など、理工同窓生の方はよくわかっていなくて……。そのあたりで新学部長に聞きたいのは、いまの理工学部の現状と、これからどういう方向にいくのか、ちょっとお話いただければと思います。



【安藤】前学部長からの引継ぎで、学部改組再編の結論を早急に出さないとけません。現状としては、確かにいまおつしやられた様に、ずっと6学科で、2000年に新しい3つが増えました。その後4年間経ったところでやっと卒業生が始め、それから5年経ったところです。たとえばうちの学科(材料機能工学科)だと最初、人数も少なく、卒業生60人くらいでした。ところがその内の2/3は大学院に行ったのです。

【清水】そういう意味では大学院に進学する学生さんが一番多かった。今でも情報とうち(材料)が割合としては一番多いのですよ。しかし去年までは非常に就職が良く、いい所に行けたということもあって大学院に行く学生さんが少なくなってきました。でも今年はさすがに今の段階で就職が厳しいという

いうこともあって、それがメインの理由なのですが大学院へ行きたいという人がまた増えています。

【清水】名城大学は、院に進まれる人は少ないと聞きますが。

【安藤】国公立大学に比べると、その割合は少ないですよ。少ない中でも材料機能工学科はまあ多いということでした。確かに大学院になると建設系は、やはり少ないですね。建設系の環境も少ないですが、建築はちよつと多いですね。材料だと就職する時に学部でいくのと大学院でいくのでは就職した後、実際に勤める部署が違います。

【清水】それと、ドクターはどうなのですか。

【安藤】ドクターはうち(材料)でも少ないです。ドクターを終わると今度は行くところが限られてしまいますから。

【清水】よその私立大学では結構、社会人ドクターが居られますね。そうすると、非常に先生も助かって、学生と一緒に研究なんかをするといろんな情報が入って良いのでは？

【安藤】はい、確かに社会人ドクターの場合は力になります。

【清水】そう言う人が入ってくると、だいぶ学生も先生も刺激を受けますよね。

【安藤】刺激は受けますね、確かに。

【清水】ただ、今の時代ですと社会人ドクターのために企業も大変だし、大学も授業料を相当安くすることも必要なのですよ。

【安藤】名城大学の社会人ドクターの場合、修了年限を延ばせる特典があります。

入学生が少なく

【清水】だんだん入学生が少なくなりますがね。

【安藤】ただ人口が少なくなっている割合に

対して、名城は一応志願者としては結構減らないで、むしろ3、4年前より少し増えています。今年はトータルで3万を超えていますし、理工としても1万人を超えています。その数の話をする、6年前に入試制度で系入試を始めた訳です。系入試でトータル数は少し減ったのですが、2年前からまた学科別と系入試と併用の形にしましてね。それから少し回復してきました。

【清水】ただそれはタブってカウントされているのでは？

【安藤】もちろん、ダブルカウントにはなるのですけれど、一応人数としては増えています。と本当に増えているかどうかということは？

【安藤】ただね、ダブルカウントを引くと言ったことは結構難しいのです。入試の種類も元々いろんな種類があったわけですからね。同じ人が何回も受けるということは今までもあったことですから。

【清水】そういうことですか。

【安藤】特に最近では、入試の回数も増えているのです。確かにその分はダブルカウントであるということはないですけどね。ただ単純にダブルだからと言って全部引いてちやうどはちよつと困る意味があるのですよ。だから、やっぱりトータルの入試で志願者がどれだけということでは数としては良いのだと思うのですが。ただ、それだけ志願者があって、それぞれの試験で合格者を出して、最終的にどれだけ残ってくれるかがものすごく難しい読みなのです。入学辞退というのもあるわけで、「3月23日までに一度手続きをして、3月いっぱいまでに辞退したらお金返します」という制度です。その制度で去年は20何人だったのが、今年は60何人。そんなに増えるというのが読めないのですよ。

【清水】そういう人達は、もう少しレベルの高いところへ行かれたということですね。

【安藤】そういうことでですけどね。だけれどそういう重なりが今後どれくらい出るか分からないのですよ。

【清水】そうですね、そんな厳しい実情ですからもう少しレベルを上げて、そう言う人達が少なくなるようにということなのでしょうね。

法学部は今年だいたい人数を減らすわけでしょう。

【安藤】定員を少なくしたいと言っているのですが、新学部との兼ね合いで結構難しいみたいです。

【清水】理工学部としては、まだそのあたりの話はないのですか、定員を減らすとか？

【安藤】それは大学として理工の定員はそのまま維持せよと、どういう改組・再編をやるにしても定員はそのまま維持せよと言うのが理事会の要請なのです。大学全体としては定員を維持したいということがあって法学部の下げ分は新学部で補う。

【清水】新学部は理工学部と関係のない学部になるのですか。

【安藤】まだしっかりとどんなものにするかは決まっていますが、今打ち出されている新学部はサイエンスコミュニケーションです。サイエンスすなわち科学の準情報系のという非常に分かりにくい。サイエンスだから理工とも関係ない訳はないでしょうね。

【清水】最近、南山とか立命とか情報理工学部を創っていますが、そういうたぐいですか。

【安藤】それとも違い、英語にもかなり力を入れ、先生になれるような教職の科目を結構たくさん採り入れているのですよ。

【清水】しかし、先生も定員が余ってきて、先生になれる人が少ないのでは。

【安藤】いや、最近結構受かっているのですよ。それは団塊の世代がちょうど終わりに近づいているからです。どんどん若い人を採用しているので、数年間受からなかったけど今年は受かったという話も結構聞きます。

【清水】だけど逆に先生のレベルはどうなのですか？

【安藤】ゆとり教育の中で理科の実験をしている先生が少なく聞いていますので、レベルは問題でしょうね。

—— 同窓会と恩師の「コミュニケーション」 ——

【清水】最近ようやく同窓会と先生達とのコミュニケーションが少しずつは取れて来ているのですが、まだ先生の中には同窓会と大学は別だという人が居られます。学長と理事長は、同窓会はステークホルダーだから一緒にやっていかないと。という気持ちで言ってくれていますが、我々が言うのでなくやっぱりトップの方から先生達に教職員も一体となつて同窓会を盛り上げていかなければならないことを言っていたとくだいぶ大変わ変わって来るかなと思うのですが。

我々が考えると後援会から次にはもう同窓会ですよ。

【安藤】はい、そうですね、確かに。

【清水】同窓会を活性化しようと思っても、そこできちんと連携が取れてないとまずいと思います。だけれど先生方の中にはまだ切り離して考えている先生もおられるみたいです。卒業生の一番のつながりは恩師だと、各科同窓会でいつも言っているのですが、学科によつて同窓会の活性化の程度が違います。先生がいろんな時に「同窓会に出てきて下さいよ」と言う話をしてくれればすぐに100人ぐらい集まると思うのです。

【安藤】そうですね。

【清水】是非、教授会などでそう言う話を学部長からしてもらいたいです。

【安藤】いいチャンスがあればします。

【清水】今年、情報系の卒業式に伺ったおり、津川先生が卒業生に3つお願いを言われました。

一つは「大学まで出してくれたこの両親に感謝しなさい」、二つ目は「君達はいい教育を受けているから自信を持って社会に出なさい」、三つ目は「私立大学は卒業生が多いから同窓会を盛り上げていかなければならないので、必ず同窓会には参加してください」と言われた時に、こう言う先生もいるのだなと思つて感激しました。

【安藤】津川先生ですね、わかります。

【清水】こんな先生が増えてくれると、若い人もいろんな活動の中に参加してくれると思うのです。

【安藤】そうですね。

【清水】こう言う話を各科の先生が卒業式の時にしてくれたら若い人も来るのだなと思つて。後援会との連携も取れてないし先生達との連携も取れてないと同窓会を通じての大学運営に大きな影響出てくると思います。そう言う意味で、理工同窓会や各科同窓会には是非先生達も時間の許す限り参加してください。

最後に、学部長から言つて名城大学理工同窓会に期待すること何かありますか？

【安藤】難しいですね。例えば皆さんの寄付金でシンボルとなる建物が建つとすごいですね。

【清水】そうですね。これからのために、このような話をさせてもらいに押しかけます。ありがとうございます。

【安藤】いつでも、どうぞ。



禅の庭



建築学科助教 三浦 彩子

山梨県にある、とある古い禅寺から、庭作りへの参加を依頼された。設計者として実績の無い私に機会を与えていただけることは、素直に嬉しい。一方、自分がこれまでに構築してきた禅の庭に関する考えが、実現されるのだと思うと、緊張する。これから、現地へ何度と無く通い、諸条件を分析し、設計を進めることになる。同時に、禅に関する理解を深めていかなければならない。今回は、その前提となる心構えのような内容を記したい。

甲州に禅が伝えられたのは鎌倉時代に遡り、多くの高僧がこの地に禅庵を営んだという。春先に訪れた寺は、山麓を背にして、中門、仏殿、方丈が並ぶ。禅の修行道場として名高い古寺の、建築物の清らかな光景に、京都や鎌倉などで育まれ洗練された禅宗文化とは異なる、甲州禅の力強い魅力を感じた。

このたびの作庭では、地元産の石材を使用する。日照りの続く気候が苔の育成に適さないため、苔で幽玄な世界観を表現するような手法は採用できない。使用する素材を極限にまで限定し、禅の修行道場たるに相応しい庭のあり方とは何かを問いかけること、何より「枯

淡の精神」でなければならない。完成すれば、誰の目にもやさしく、綺麗に整備された、各地の観光寺院で見慣れた禅庭とは、まったく違うものになるだろう。

禅を知り、禅を理解し、禅を行うことは難しい。しかし、静かで深い呼吸法、豊かで広い心のあり方を学ぶことは、とりわけ現代人に必要なことである。

現代の日本では、経済の動きの速さと、組織変革の速さとの乖離が甚だしく、その歪による不利益を、若者が負わされている印象がある。私は学生にはそれぞれに充実した人生を送ってほしいと思う。ただし、安易に起業したり、放浪することや問題が解決するものでもない。そのため

には、既存の組織への適合性を高めるよりも、変化に対応する力強さや、新しい環境でも自分の職務を遂行できるコミュニケーションの力、異なる組織の人とも円滑に関係を築くことのできる柔軟性などを備えることが必要だと考えている。今、静かに自分自身の身体と心を見つめてみることに、これこそ「禅の庭」をつくる本来的意義である。



龍安寺 石庭(京都)

日本の造園についての問題点

現在、日本の造園についての問題点として、和風庭園という言葉に象徴されるように、京都の伝統的な庭園を頂点とする、高度な側面と、蕎麦屋の坪庭のようなキッチュな側面とに、二極分離している状態が挙げられる。つまり、その場その場での観光的要望、商業的要望に対しては、それなりの対応は出来ているが、日本の現在の生活との関連は希薄である。それゆえに、日々の思索対象あるいは、思索補助の道具として、和

風庭園は機能していないということである。

本来、日本の住環境は、外部と内部の相互干渉を、環境制御、視覚表現の両面について、積極的に活用することで発展してきた。しかし、明治時代以降は、日本の風土と関連のない欧米の要素を表層的に採用したため、視覚表現については混乱をきたしたままである。特に、戦後の土地開発の方針が、経済原則に大きく影響されるようになるや、環境制御面についても、工業技術に頼る一方で、自然現象としての空気や光の作用に関しては、軽視されてきた。

金融経済の混乱をきっかけに、一部の人は、目先のわかりやすさよりも物事の本来の姿を追求するようになってきている。それは、事物を直接自分の体で経験し、自分の頭で考えることである。最初は食べ物や衣服の選択といった、日々の消費活動に影響し、その後、さらに追及が至ったとき、たどり着く分野の一つが、自然と人工とが対峙する表現である。「庭ではないかと思う。しかし、前記ハイエンド和風、ローエンド和



Public Safety Building Plaza, Robert Irwin, Seattle, WA, 1980

風のいずれも、その要求にこたえることは出来ない。なぜなら、両者とも現在の日本の反映ではない。社会の要求がある以上、そこに対応する何らかの「庭」が提案されるのは、時間の問題である。それも、既存の建築家や造園家以外のところから、あるいは日本以外のところから、やってくるのではないかと期待する。

禅の概念と庭

禅の概念と、造園との間には、直接の関連はないと考えている。仮に、ある

禅の概念を設計者の主観により、石などを組み合わせて表現したものを、幾つか庭の中に並べてみたところで、それが禅の本質とはかけ離れたものになることは予想がつく。

ヨーロッパの寺院建築では、絵画やステンドグラスにより、宗教的エピソードが描写されるが、それらは、文盲率が高かった世相を反映したからであり、今日の日本でその手法を繰り返すことに意義があるとは思えない。特に、わかりやすいこと、視覚化しやすいことを必要以上に追求した表現が、広く蔓延し



瑞泉寺の座禅窟(鎌倉市)(夢窓疎石 作)

ていることに疑問をもっている。概念的にも、空間体験的にも、見る場所、時間、回数によって異なる受取り方が出来る庭が出来れば、一定の成功ではないかと考えている。

若輩の私に、こうした機会が与えられるのも、本校を基盤にした活動があったからこそであり、感謝申し上げたい。

「己事究明」(己が事を究明す。自己の実存、根本、在り方を探求し究明する。)最後に高僧から私に伝えられた言葉である。

53年間の 名城大学を終えて



杉下 潤二
(昭和34年卒・名城大学名誉教授)

私は昭和30年に名城大学機械工学科に入学し、34年に卒業しましたが、卒業の年、体をこわし、35年から母校・機械工学科の教員となりました。今年3月をもつて定年退職いたしましたので、大学4年間と在職期間を含めますと足掛け53年間、名城大学にお世話になったことになり、生粋の名城生まれ・名城育ちの人間であります。

過ぎ去った昔を振り返ってみても、どれくらいの方が同感していただけるか、信じていただけるか分りませんが、編集子の依頼により、ペンを執らせていただきました。

思い出は、全てセピア色ながら、苦しかった時代ほど鮮明であります。ご承知のように、本学の経営紛争・民主化闘争は昭和28年から10年間ほど続きましたから、私が入学した時も、卒業してから、大学に勤めるようになってか

らも、ずっと続いていました。今にして思えば、入学合格通知書に学長名は学長代行とあったように記憶します。それが何を意味するのか、選んで入学した大学が紛争中であつたことなど、熊本出身の私は知るよしもなかったのです。しかし、やはり名城大学のこの紛争は、新生名城大学となるための生れいずる苦しみであつたと思います。特に当時の学生、教職員の奮闘ぶりは後世に語り伝え、残していくべきで、決して風化させてはならないことだと思います。

多くの大学もそうでしたが、当時の中村校舎は全て木造で古く、雨漏りや歩くと抜けそうな廊下、勿論、冷暖房があるわけではなく、卒業論文や卒業設計の審査のときは、先生は分厚いコートを着て、四角い火鉢を囲んでのものでした。このようなオンボロ校舎をある週刊誌は「地上最低の大学」と評しまし



天白2号館



中村校舎 機械実習館(2階は製図室)

中村校舎が一応の体裁が整った頃、名城大学のためにと言ってもいい私学紛争調停法(暫定)の制定によって長年の大学紛争は解決し、天白キャンパスへの移転となったことはご承知の通りです。

現在の天白キャンパスには綺麗な校舎が幾つも立ち並んでいます。校舎の立派さ相応ないレベルの大学になったのでしょうか。現在の本学を四文字で評価しますと、「理高文低」、入学難易度のことです。あのオンボロ校舎や間借り校舎の時代でもこんな状況ではなかったと記憶します。往時の文系学部は大学として最も早く設置された学部であります。長年の歴史を積み重ねながら、せめて中部地区私学の雄に、なぜ現在に至ってもなり得ていないのか、遅々と

しているのは何が原因なのか…。私は、基本的には当該学部教員の努力不足や大学経営戦略の積年の欠如にあると思います。母校愛に燃える本学卒業生が文系学部の教員となっている数は、理系学部よりも極端に少なく、残すような施策をとらなかつたことも要因の一つかも知れません。卒業して社会に出たとき、何々学部出身、何々学科出身ではなく、名城大学出身として評価されます。一つでも凋落学部があれば、その尺度で大学が見られてしまうからです。

これからの名城大学は社会の要請と期待を真摯に受け止め、量的拡大を図ることなく、既設学部や学科の改組改編を進めることで、質的な充実を素早く図っていくべきであります。

三月、定年になってから約一ヶ月、木曜日以外は殆ど狭いながらの菜園仕事や自然相手のことをしていますが、植物を育てることは学生を教育指導することに良く似ていると思うこの頃であります。大学も学生の勉学研究環境づくり、学生が育つ土壌づくりが一番大切ではないかと思えます。しかし、土壌の改良は一朝一夕にはできず、肥料のやりすぎが一番の失敗原因です。先生方には、FDを正しく理解し実行していただくことをお願いする次第です。

「名城」と言えば名古屋城のこと、ではなく、名古屋町なら大学は名城…と名城節の文句のように、そろそろ「名城」と言えば、やはり「名城大学」と言って貰える日が一日も早いことを祈念し、53年の名城大学とお別れいたします。ありがとうございます。

理工各科同窓会案内

電気会

会長 伊藤 栄
新春情報交換会開催
日時：平成22年1月16日(土) 17：00～
場所：名古屋ガーデンパレス
会費：8,000円受付にて拝受

機械会

会長 渡辺治比古
第9回新春交流会開催
日時：平成22年1月23日（土） 18：30～
会場：名古屋ガーデンパレス
問い合わせメール：watanabeh@shinmei.co.jp

交通
機械会

会長 高垣満正
新春賀詞交歓会開催
日時：平成22年2月初旬予定 場所：未定
ホームページ：http://www.geocities.jp/traffic_ob_meijo_u/

土木会

会長 三宅 豊
年末情報交換会開催
日時：平成21年11月20日(金) 18：30～
場所：名駅前 レセプションハウス

建築
同窓会

会長 岩崎征一
新春情報交換会開催
日時：平成22年1月15日(金) 18:00～
場所：アイリス愛知

理工同窓会・各学科同窓会・技術士会のホームページが出来ました!

理工同窓会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/
〈各学科同窓会・技術士会〉	
数 学 会	http://math.meijo-u.ac.jp/sugakukai/
情 報 会	http://www.meijo-johokai.org/
電 気 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/denkikai
材 料 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/zairyokukai/top.html

機 械 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/kikaikai/
交通機械会	http://www.geocities.jp/traffic_ob_meijo_u/
土 木 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/dobokukai/
環 境 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/kankyokukai/kan_gyojiyote.html
建築同窓会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/kentiku/
技 術 士 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/gijutusikai/

今すぐにアクセスを！

今年度の理工同窓会総会の開催に向けて、理工同窓会を始め、各学科同窓会並びに技術会のホームページを皆様のご尽力により立ち上げることが出来ました。

皆様からの貴重なご意見・ホットなトピックス・情報等を頂き、理工同窓会の今後を盛り上げて行きたいと考えていますので、ご協力願います。



役職	氏名	学部・年生
会長	清水 正義	土・S 44
副会長	岩崎 征一	建・S 41
副会長	伊藤 栄	電・S 50
副会長	渡辺治比古	機・S 57
常任幹事	中山 俊一	数・S 44
常任幹事	川上 裕司	情・H 18
常任幹事	飯島 祐樹	材院・H 19
常任幹事	永津 圭介	交・S 50
常任幹事	三宅 豊	土・S 46
常任幹事	永井 功	環院・H 17
幹事	岡田 毅	数・S 44
幹事	渡辺 孝夫	数院・H 12
幹事	内山 雅文	情・H 19
幹事	開米 和明	電・S 47
幹事	岩室 隆	電・S 45
幹事	祖父江力三	機・S 45
幹事	鳥居 一仁	機・S 60
幹事	福永 雄平	材・H 19
幹事	佐藤 一徳	材・H 19
幹事	庵原 英雄	交・S 46
幹事	酒井 定夫	交・S 59
幹事	都築 正治	土・S 44
幹事	河合 紀	土・S 46
幹事	石川 豊	建・S 47
幹事	小木曾森司	建・S 48
幹事	渡辺 穎造	環院・H 17
学内幹事	富田 耕史	
学内幹事	村田 英一	
学内幹事	清水 泰弘	
監査	広瀬 敏朗	建・S 44
監査	服部 達也	材・H 18

平成21年度
理工同窓会役員名簿

(任期・平成21年4月～平成22年3月)